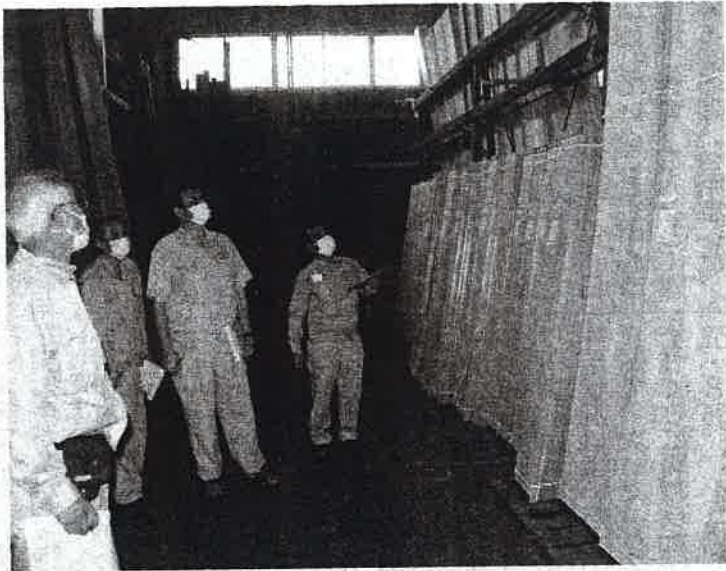


「秋銘展」開幕

製材、製品3千点審査

最高賞は下原建設（新潟市）に

県銘木センター（瀬川貴志理事長）の第54回県銘木展示大会が22日、能代市河戸川の同センターで開幕した。製材、製品部門に出展された約3千点の審査が行われ、最高賞の林野庁長官賞に下原建設（新潟市）の「神代樺厚板」が選ばれた。製品の販売は23、24日、原木の競りは23日に行われる。



銘木製材業者らが出展した製品約3千点が並ぶ「秋銘展」が開幕

「秋銘展」の愛称で呼ばれる同展示大会は東日本銘木展示大会（1月）、銘青会まつり（5月）に並ぶ三大特市の一つ。能代山本を中心とする県内外の製材会社などが手掛けた天井板1500点、厚板1千点、造作・建具材500点、盤類1500点が出品された。



林野庁長官賞に輝いた下原建設の「神代樺厚板」

必要し合う



技術高の全校生徒が灯籠の引き手などで参加した。実行委には協議会の役員ら15人が参加。福田幸一実行委員長は「3年ぶりの運

この日の審査では、センターの正副理事長と職員の5人が製品の色合いや加工技術、装飾性の高い模様を示す「空目」、真つすく伸びた木目が美しい「柾目」の具合などを総合的に採点した。

林野庁長官賞を受賞した「神代樺厚板」は、新潟県の原木市で競り落とした神代ケヤキを挽いた逸品。長い間、地中に埋まっていた埋もれ木を長さ5・5メートル、幅1・1メートル、厚さ12センチに製材した巨大な厚板で、瀬川理事長は「質感もあり貴重。これだけの材はめったに出ない」と絶賛した。

23、24両日は午前9時から製品を販売する。23日正午には原木市があり、米代西部森林管理署管内で切り出された杉丸太60立方メートルに掛けられる。

林野庁長官賞を除く入賞製品は次の通り。

新型コロナ 27日から公表様式変更

新規感染者数は合計のみ

新型コロナウイルス感染者の「全数把握」見直しを受け、県は27日から感染者数などの公表様式を変更する。保健所管内別の感染者数は発生届の対象のみ公表し、対象外の軽症者らを含む日ごとの新規感染者数は、全県の合計数のみとなる。

27日以降の公表様式は▽全県の新規感染者数▽年代別新規感染者数（10歳未満に運行全体を見直す必要がある。生徒の身体の心配もしつつ、観客が満足できる運行を目指すければ、流れるような運行にするため

と60歳以上は5歳刻み、それ以外は10歳刻み）▽死亡者数——を基本とする。医療機関で陽性が判明した人の数と、県が配布する検査キットなどで陽性となり「陽性者登録センター」に登録した人の合算で示す。保健所管内ごとに公表する新規感染者数は、見直し後も医療機関が保健所に発生届を提出した人のみとなる。年代は全県の新規感染者数と同様に示す。

クラスター（感染者集団）は、発生届があつた感染者を含む新規確認のみ、管轄保健所ごとに「施設」などの区分と感染者数を公表する。

「佐藤 木セ、平割

「佐藤 木セ、平割

「佐藤 木セ、平割

「佐藤 木セ、平割